



いざ! 全国和牛能力 共進会へ

全国和牛能力共進会とは

【全】国和牛能力共進会は、時代に応じた和牛改良の成果や和牛の優秀性を競い、今後の和牛改良の方向性を明示することを目的に、5年に1度開催される大会で「和牛のオリンピック」とも呼ばれています。

この大会で優秀な成績を収めることで、その地域の和牛ブランドの市場価値が全国的に高まります。また出品を通

じて改良の成果を検証する機会にもなることから、この大会への参加は大きな意味を持ちます。

そして、第11回目の大会が本年9月7日(木)～11日(月)の期間で、宮城県で開催されます。

今回の大会は、「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」がテーマです。全国から517頭(種牛の部334頭、肉牛の部183



「比婆牛と全国和牛能力共進会」

【比】婆・庄原地域は、古くから和牛飼養がさかんで、全国に先駆けた和牛改良事業が展開されてきました。系統、近親繁殖による交配などを重ねて優良形質の維持に成功した系統は「蔓(つる)」と呼ばれますが、最古の蔓牛(※)のひとつ「岩倉蔓(いわくらづる)」をもとに改良した優秀な和牛「比婆牛」を輩出する産地として、全国にも広く知られています。

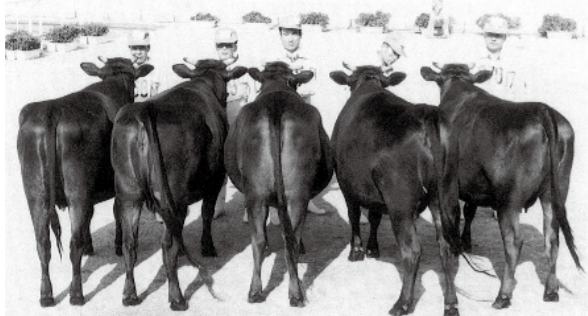
庄原市内からは、全国和牛能力共進会の開催が始まって以降、全ての大会に広島県代表牛として出場しています。そして、全国に誇ることでできる、素晴らしい成績を挙げています。

今大会も、6月13日に開催された広島県最終選抜会で、県代表となる種牛の部19頭のうち、17頭が庄原市から選抜され、出品することが決まっています。

※蔓牛：優れた牛の系統のこと

開催年	大会名	最高成績
昭和28年	第1回全国和牛共進会(広島県) (全共の前身となる初の和牛全国大会)	名誉総裁高松宮杯(総合首席)
昭和41年	第1回全国和牛能力共進会 岡山県大会 (以下「全国和牛能力共進会」省略)	1等賞3席
昭和45年	第2回 鹿児島県大会	1等賞6席
昭和52年	第3回 宮崎県大会	農林大臣賞(優等賞首席)
昭和57年	第4回 福島県大会	内閣総理大臣賞(総合首席)
昭和62年	第5回 島根県大会	内閣総理大臣賞(総合首席)
平成4年	第6回 大分県大会	優等賞2席
平成9年	第7回 岩手県大会	農林水産大臣賞(優等賞首席)
平成14年	第8回 岐阜県大会	優等賞6席
平成19年	第9回 鳥取県大会	優等賞3席
平成24年	第10回 長崎県大会	優等賞4席

※第1回・2回大会は優等賞の名称が1等賞



第5回大会での総合首席 受賞牛(広島県比婆和牛育種組合)



天皇杯2大会連続の総合首席が評価され受賞



第10回 長崎県大会 広島県代表集合写真



前大会で全国4位 3柴沖茂





「広」 島県は、和牛の産地規模では九州などの大産地に大きく劣っています。庄原がいかにも優秀な和牛産地であっても、大産地と対等に競い合うのは簡単なことではありません。今、和牛の世界では全国的に和牛の系統が似通い、地域の特徴ある和牛が減少していることが大きな課題となっています。これは、今回の大会のテーマとねらいにも大きく関わっています。

「比婆牛」の系統を持つことと、この大会での躍進の鍵になります。

そのために、庄原市では今回の大会に向け、前大会が終了した翌年から市対策協議会を設立し、候補牛の頭数確保や優良和牛の飼養推進、巡回指導などを実施。「比婆牛」ブランドの復活も含め、この大会への出品対策を進めてきました。

特に4区では、比婆牛の系統を良く受け継いだ種牛「烏帽子(えぼし)」の子に当たる雌牛4頭の出品という新しい取り組みも行い、成果が期待されます。



関係機関による巡回指導



広島県代表牛最終選抜会(6月13日開催)

「比婆牛」の系統を持つことと、この大会での躍進の鍵になります。

今大会に向けた取り組み

Interview ●インタビュー



庄原和牛改良組合 藤山 明春 組合長

ついに「全共」が目前に迫ってきました。「和牛」は、日本が世界に誇る食材であり、品種改良を重ね優秀な血統を守り伝える地域の貴重な資源です。その「和牛」の文化の成り立ちに、ここ庄原は大きな役割を果たしてきました。かつて庄原では、地域と指導機関が一体となり、全国でも先進的な和牛改良が行われてきました。そうして名を売った「比婆牛」は、全国から求められ、各県の改良基礎牛として、全国に広がり、今も「比婆牛」を持つ和牛が他の県からも出回ります。このように「いちばん」といえる歴史の自家本元である庄原が、もう一度今回の大会で躍進し、庄原市全体の畜産振興の弾みになればと思います。

近年、和牛の若い担い手も増えてきていますし、今大会にも若い出品者がいることを、大変心強く感じています。

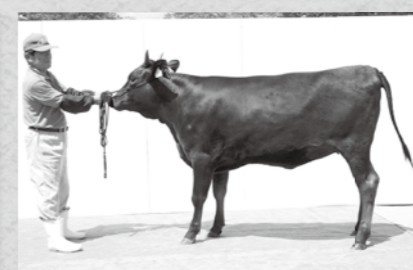
庄原から宮城の会場まではおよそ1100キロメートルの距離があり、出場する牛はトラックでの輸送となるため、牛にとっても過酷な道中となります。出品者の皆さんは、猛暑の時期でもありますので、人畜ともに体調の管理には十分に注意して、大会に向けてもうひと踏ん張りの飼養管理をお願いします。

出品者一同頑張りますので、温かいご声援をお願いします。

「第11回全国和牛能力共進会」 種牛の部 庄原市内の出品者



第1区 羽賀徹さん(東城町)



第2区 垣内とみこさん(比和町)



第3区 近藤丈登さん(尾引町)



第4区 左から順に 見川昇さん(東城町)・株藤谷上川畜産(尾引町)・三谷美登さん(比和町)の代理・中市圭祐さん(高野町)



第5区 左から順に 廣谷信行さん(上原町)・藤山明春さん(口和町)・清水充さん(東城町)・田平訓三さん(西城町)



第6区 左から順に 大迫貴史さん(峰田町)・大迫一三さん(峰田町)・大迫晴由さん(峰田町)



第7区 左から順に 広島県立庄原実業高等学校・大迫晴由さん(峰田町)・(神石高原町出品者)・廣谷信行さん(上原町)

※肉牛の部の代表牛は8月上旬に決定予定です。

出品区の概要について

出品区	区のねらい
第1区(若雄の部)	産肉能力、種牛能力ともに高い能力が期待される種雄牛をつくる
第2区・3区(若雌の部)	改良組合活動の活性化による増頭意欲の向上と全共参加者の拡大
第4区(系統雌牛群)	地域における特色ある系統の再構築をめざした体制づくり
第5区(繁殖雌牛群)	改良組合を中心とした繁殖雌牛集団の改良成果の確認と技術向上
第6区(高等登録群)	母～娘～孫娘にわたる改良成果の確認と、優良系統を地域へのこす
第7区(総合評価群)	同じ種雄牛の子を種牛4頭と肉牛3頭で実証展示することによる改良成果の確認
第8区(若雄後代検定牛群)	次の世代を担う若くて能力が高い種雄牛の発掘など
第9区(去勢肥育牛)	効率的な肉牛生産をめざすための、和牛の肉用牛としての能力の追求と肥育技術の研さん

第11回全国和牛能力共進会 宮城大会

●開催期間 平成29年9月7日(木)～11日(月)
●会場 夢メッセみやぎ、仙台食肉市場

全共宮城大会 マスコットキャラクター うし まる 牛 政 宗

がんばるモス!!